



井戸ばた会議

7月号の★募集テーマから



高齢者とペットのこと

ペットの問題、介護保険外のサービスを使ったり、地域ケア会議で話し合っ行政の協力を得たり、住民の協力を得たり、さまざまな方法で支援されていますね。みなさんの見放さない対応に、脱帽でした。
(編集部)

自費ヘルパー導入で対応 支援は引き取り手探しまで

福岡県 井上千恵子さん 50代

老々介護の夫婦と、その愛犬の支援が印象に残っています。

妻は認知症を患い、夫は事故で左足をなくし、健側の足の筋力も弱く、車いす生活でした。子どもはなく、5歳になる柴犬は、夫婦にとって子

どものような存在でした。

犬の世話は、当初は妻がなんとかやっていたのですが、認知症の悪化で入院。夫は犬にえさをやるのが精いっぱい、散歩も便の処理もできない状態でした。「犬も絶えずほえて、困っている」と夫から相談を受け、夫婦に貯金があったことから、介護保険のヘルパーに加え、週2回、自費のヘルパーを導入することに。朝

晩のえさやり、散歩、便の処理までお願いできたため、環境は良くなり、犬もほえなくなりました。

数年後、夫の状態も悪化し、ほぼ寝たきりに。施設入所を提案しましたが、「家で犬と暮らす」と。自費のヘルパー、介護保険のヘルパーの回数を週5回に増やし、週3回のデイケアも入れ、数年後に夫が自宅で亡くなるまで支援しました。

投稿用紙のご利用 (p.41、もしくはホームページから投稿) で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。

夫が亡くなった後も支援は続きました。夫は家族と疎遠で、妻も入院。そこで私が犬の引き取り手を探すことに。法人本部にも協力を求め、全事業所で里親募集を行ったところ、新しい飼い主が見つかりました。今も元気に暮らしています。

町が動いてくれ、猟友会のメンバーに犬を引き取ってもらうことができました。ただ、本人がもつともかわいがっていた1匹は、最後までそばにいました。

地域猫をお世話 「猫がいるから入所しない」

東京都 K・M 47歳

長年、地域猫の世話をしてきた独居の利用者さん。要介護5、寝たきりになった今も、枕元にえさを置き、猫は家の中に自由に出入りしています。本人は自分の飼い猫だと言い張っており、「猫を残して、病院や施設には入らない」と。体調が悪くても、ショートステイすら拒否。区分支給限度額いっぱいまで使って、訪問看護に訪問診療、ヘルパー、デイも入れて支援してきました。

本人の生きがいになっているし、デイで家を空けるときは、隣人が猫の面倒を見てくれます。臭いなどありますが、今のところ住民からのクレームもなく、このまま看取りまでいくのかなと考えています。

ただ、入院が必要となったときに本人をどう説得するかなど、課題は多いです。

町を通じて猟友会と連携 地域ケア会議は偉大!

徳島県 M・Y 44歳

私の働く町は中山間地域で、介護保険のサービスが少ないです。高齢化率も高く、自治体と連携しながら支援に取り組んできました。地域ケア会議も、地域包括支援センターが設置された2006年から毎月開催しています。

利用者が飼えなくなったペットの引き取り手探しなど、ケアマネジャーだけでは難しい問題も、会議で共有することで解決につながっています。例えば、元猟師の男性のケース。脳こうそくで下半身まひになり、5匹の猟犬の世話ができなくなりました。犬は家中を走り回り、ほえ、便をする。騒音と臭いで、隣人からクレームが出ていました。

地域ケア会議で相談したところ、

アニマルセラピーの 効果を実感

千葉県 上妻和弘 35歳

夫が認知症の妻を介護している家庭、妻は不穏で声を荒らげることもありますが、近所で暮らす娘が飼い犬を連れてきたときは落ち着いて過ごしています。

以前勤めていたデイサービスでも、スタッフが飼い犬を連れてくると、利用者さんがひざの上に乗せてかわいがったり、昔飼っていた犬の思い出話を花を咲かせたりしていました。

動物は、人間にはない癒やしの力が備わっていると思います。

ペットと暮らせる特養 私たちも実現したい

徳島県 のんのん 30代

特養で働いています。入所者の中には独居で生活されていて、入所する際にペットと離ればなれになってしまう方がいて、胸を痛めています。

地域の介護職が集まる勉強会で現場の課題を話し合う時間があり、そこで、入所者のペットのことを話してみました。他事業所の介護職から

